

農林漁業のうごき

京都府 No.189 令和 3 年

京都の豊かな森林を未来へつなぐ
～「豊かな森を育てる府民税」の第2期スタート～



森林の整備・保全



森林資源の循環利用



森林の重要性の啓発

内容

特集 1	令和3年度 農林水産関係当初予算の概要 2～5
特集 2	第4次京都府食育推進計画を策定しました 京都府飼養衛生管理指導等計画を策定しました／京都府内水面漁業振興計画を策定しました 6～7
特集 3	「豊かな森を育てる府民税」の課税期間を延長します＜第2期のスタート＞ 8
特集 4	ICTを活用した未来のお茶づくりに取り組んでいます 9
特集 5	畜産の担い手を育成しています～1期生1年目修了レポート～ 9
トピックス	上桂川統合堰（亀岡市・南丹市）の改修を行いました 次世代の担い手確保の取組を行っています 府内産農林水産物を使用した新商品開発等への支援 上桂川「陸封（りくふう）アユ」セミナーが開催されました 第4回Woodyコンテストを開催しました 伊東木材株式会社が「農林水産大臣賞」を受賞 10～12
シリーズ	農林水産技術センターへようこそ 第13回 農林センター 13
地域の取組	（山城）「京やましろ産ごちそうマップ」を発行～おいしい山城産食材を召し上がれ～ （南丹）誰もが住み続けられる地域を目指して 摩気ビジョン「MAKE The Future ! ～豊かな環境の未来へ～」が完成／「亀岡牛」枝肉共励会が開催、学校給食にも登場 （丹後）新型コロナウイルスに負けるな！「丹後産野菜＆フルーツ 応援フェア」を実施 14～15
シリーズ	スマート技術の活用で農林水産業が変わる！ 16



令和3年度 農林水産関係当初予算の概要

京都府では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、府民の安心強化・感染拡大防止などの対策を最優先とした上で、令和元年度に策定した「京都府総合計画～京都夢実現プラン～」に掲げた各種施策を着実に推進し、誰もが安心して過ごすことのできる環境を確保するとともに、POSTコロナ社会に夢や希望が持てる京都府の実現に向けた予算を編成したところであり、予算規模は、一般会計で前年度当初予算比14.8%増の1兆350億円を計上しました。

農林水産分野においても、令和元年度に策定した「京都府農林水産ビジョン」に掲げた5つの「重点戦略」を中心に、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、WITHコロナ・POSTコロナ社会においても、希望と活力に満ちた農林水産業や農山漁村を実現するための取組を計画的かつ総合的に推進する予算として一般会計で約193億円を計上しました。

【戦略1】スマート&コラボで農林水産業の夢と未来を創る

〈①スマート技術の実装による生産現場の抜本強化、 ②異業種・異分野とのコラボによる新しい農業ビジネスの創出〉

■集落連携100ha農場づくり事業……………【新規 8,685万円】

複数集落の組織化や農地管理の分離・委託による規模拡大・収益力向上及び企業連携による人材確保を支援することにより、メガ団地（100ha農場）を形成する営農モデルを構築し、持続可能な地域農業を創出する。

〈①スマート技術の実装による生産現場の抜本強化〉

■スマート農林水産業加速事業……………【継続 2億1,380万円】

生産現場の過疎高齢化による農林水産業の生産力低下と農山漁村コミュニティの衰退に対応するため、AI・ICT等先端技術を活用したスマート技術の実装を加速化し、農林水産業の作業性・品質・生産性を向上することで、府内農林水産業の成長産業化と魅力向上、集落維持を実現する。

〈②異業種・異分野とのコラボによる新しい農業ビジネスの創出〉

■京ものブランド力向上総合戦略事業……………【新規 1億6,320万円】

外食から内食・中食へのシフトなど、ライフスタイルや消費動向の変化に素早く対応し、国内外における府内産農林水産物・加工品（京もの）のブランド力・販売力を強化するため、京の食文化や健康機能性を有する「京都プレミアム中食」の開発やビジネスモデルの構築を支援するとともに、京もの一体での海外販路拡大等を図る。

〈③農林水産業を支える強い基盤づくり〉

■農林水産業基盤整備事業……………【継続 45億1,797万円】

農林水産業のイノベーション実現のため、生産基盤を整備するとともに、安心・安全な地域社会の実現のため、農山漁村と森林の防災・減災対策を実施する。

■海洋調査船建造費……………【継続 1億8,050万円(債務負担行為15億8,100万円)】

水産制度改革に伴い資源管理の強化が必要となる中、府漁業の経営安定、漁村の活性化に貢献するため、海洋調査船「平安丸（平成9年竣工）」に代わる最新の性能を備えた調査船を建造する。

■京都農業経営強化事業……………【継続 1億599万円】

ブランド京野菜など収益性の高い園芸産地を育成するため、園芸用パイプハウスや生産・出荷調整機器の整備等を支援する。

【戦略2】「林業の再生」と「防災・減災」の両輪で健全な森林を目指す

①京都産木材サプライチェーンの再構築と安定的な経営の実現

- **林業「森世紀」創造戦略事業(生産体制強化)(豊かな森を育てる府民税活用)・・・【一部新規 7,640万円】**
主伐や間伐を促進することにより、安定的な出材量を確保するとともに、再造林への支援を強化することにより、次世代につなぐ森づくりを推進する。
(新) 市場への運搬コスト削減に向けた物流システムの検討等、木材の循環利用を促進
- **林業「森世紀」創造戦略事業(販路拡大)(豊かな森を育てる府民税活用)・・・【一部新規 1億3,264万円】**
公共施設や民間施設、住宅における府内産木材の競争力強化と需要拡大を推進する。
(新) 府内産木材を利用した木製品の開発を支援
- **森林経営管理制度市町村支援事業 ……………【一部新規 1億11万円】**
森林経営管理制度(※)の円滑な運用のため、市町村への技術的支援や職員研修に加え、業務推進ツールの開発等を行い、市町村の取組への支援を強化する。
(新) 集積計画作成等の業務推進ツールを開発し、市町村業務の効率化を支援
(※) 森林経営管理制度：森林を市町村が適正に管理するため、林業経営の適否に応じて意欲と能力のある林業経営者に委託又は市町村自ら経営管理を行うもの

- **次世代林業を担う林業事業体総合支援事業 ……………【継続 3億7,047万円】**
生産性向上と府内素材生産量の増加の実現による林業の成長産業化と適切な森林管理の両立を目指し、府内の林業を担う林業事業体の経営をソフト・ハード両面で総合的に支援する。

- **豊かな森を育てる府民税市町村交付金(豊かな森を育てる府民税活用) ……………【継続 2億円】**
豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する市町村事業に対して、交付金を交付する。

②森林災害の防止・低減に向けたハード・ソフト両面からの対策強化

- **森林災害防止事業(一部再掲)(豊かな森を育てる府民税活用) ……………【継続 36億4,163万円】**
森林が有する災害防止機能を高度に発揮させるため、森林整備等を実施し、防災・減災対策を強化することにより、府民の安心・安全を確保する。

【戦略3】「京都らしさ」を生かしたバリューチェーンで国内外への展開を加速する

①京都ブランドの世界展開の加速化と国内戦略の再構築

- **京ものブランド力向上総合戦略事業(再掲) ……………【新規 1億6,320万円】**
外食から内食・中食へのシフトなど、ライフスタイルや消費動向の変化に素早く対応し、国内外における府内産農林水産物・加工品(京もの)のブランド力・販売力を強化するため、京の食文化や健康機能性を有する「京都プレミアム中食」の開発やビジネスモデルの構築を支援するとともに、京もの一体での海外販路拡大等を図る。
- **「京都ブランド米」新展開事業 ……………【一部新規 7,300万円】**
新たに開発した京都府オリジナル米新品種「京式部」のブランド化を戦略的に進めるとともに、「京の米」の高品質化と知名度向上を推進し、新たな市場・販路拡大を展開する。
(新) 京都府オリジナル米新品種「京式部」の本格販売開始に合わせ、戦略的なPRを推進

■宇治茶ブランド世界発信事業 ……【一部新規 4,240万円】

宇治茶の新たな市場・販路拡大を図るため、宇治茶のプレミアムブランド化や商標対策を推進するとともに、「京都府宇治茶普及促進条例」を契機とした茶業振興や世界文化遺産登録に向けた取組を展開する。
(新) 輸出対応産地や「宇治種」への改植の取組を支援

■未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業 ……【継続 1,375万円】

府内産水産物の生産・流通拡大、次世代の担い手育成により漁業・漁村を活性化する。

〈②京都ブランドを支える流通の基盤づくり〉

■きょうと「食の安心・安全」確保事業 ……【継続 184万円】

食の安心・安全行動計画に基づき、食品表示の適正化や「食」に関する情報発信等の取組を強化することにより、府民の「食」への信頼を確保する。

〈③京の食文化を守り育む食育・地産地消の推進〉

■きょうと食いく先生活動拡大・強化事業 ……【一部新規 934万円】

「きょうと食いく先生」の派遣、地域の食育支援活動、若い世代を対象とした食育出前講座の開催等により体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進する。

(新) WITHコロナ社会に対応したオンラインによる体験型食育のモデル的取組を実施

【戦略4】人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域を実現する

〈①意欲ある「経営者」を育むオール京都体制と働き方改革の実践〉

■集落連携100ha農場づくり事業(再掲) ……【新規 8,685万円】

複数集落の組織化や農地管理の分離・委託による規模拡大・収益力向上及び企業連携による人材確保を支援することにより、メガ団地(100ha農場)を形成する営農モデルを構築し、持続可能な地域農業を創出する。

■京都農人材育成強化事業 ……【継続 4億7,373万円】

攻めの農業への転換を図るため、オール京都体制で「京都農人材育成センター」を運営し、京の農業応援隊(農業改良普及センターなど)による技術研修などの伴走支援に加え、段階に応じた経営研修を一体的に実施することで、高度な経営感覚を持つ農人材を育成する。

■京都畜産未来の担い手づくり事業(一部再掲) ……【継続 411万円】

畜産の担い手が減少する中、畜産経営の法人化を進めることで対外信用力の向上や就業条件の改善を図るとともに、畜産法人等への就業や新規就農希望者を幅広く確保することで、後継者の育成を推進する。

〈②農林水産業・農山漁村を支える人材の裾野拡大〉

■未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業(再掲) ……【継続 1,375万円】

府内産水産物の生産・流通拡大、次世代の担い手育成により漁業・漁村を活性化する。

■京都モデルフォレスト推進事業 ……【継続 500万円】

森林所有者、ボランティア団体、企業等が連携した府民参画、府民協働による森づくりを推進する。

【戦略5】地域住民に寄り添い、強みを磨いて農山漁村（ふるさと）の絆を守る

〈①持続的で希望と活力に満ちた地域づくり〉

■農村型小規模多機能自治推進事業 ……【一部新規 1億5,059万円】

小規模農家も含めた農山漁村全体を守る活動を強化するため、外部人材の活用を含めた地域の基盤づくりや、地域資源を活用した「なりわい」づくりから企業と提携したビジネスへの発展まで一体的に支援し、トータルマネジメントを行う農山漁村コミュニティ（農村型CMO（※））を形成する。

（新）地域共同活動の合理化に向けた近隣集落との連携支援など、農山漁村コミュニティの再構築をサポート

（※）農村型CMO：地域活動と収益活動を一体的に運営する農村コミュニティ法人

■京都移住促進プロジェクト事業 ……【継続 1億3,657万円】

農山漁村の担い手が減少する中、新たな担い手の確保を核とした都市との共生によるまちづくりを総合的に推進し、活力ある地域を創出する。

■有害鳥獣総合対策事業 ……【継続 5億5,150万円】

メスジカ等の捕獲強化や捕獲個体の処理施設の整備、防護柵の整備の支援、担い手育成等により農作物被害対策を推進する。

〈②京都の独自性や多様性を生かした地域ビジネスの展開〉

■「食の京都」推進事業 ……【継続 1,810万円】

府域共通の観光資源でもある「食」を目的とした観光誘客を促進するため、「食の京都」をキーワードに地域のいちおし食材を活用した地域の魅力向上・消費地での認知度向上を図る。

■「農・観」連携地域コミュニティ応援事業 ……【継続 2,100万円】

野菜の収穫体験の実施等農山漁村の実りや暮らしを体験できる地域資源を磨き上げ、地域をまるごと滞在施設化する取組を支援し、地域振興を図る。

令和2年度 2月補正予算(冒頭提案分)の概要

京都府では、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が再発出されたことに伴い、対策を強化するとともに、公共事業等について、国の補正予算も積極的に活用しながら進めるため、府議会2月定例会で冒頭提案を行い、令和2年度2月補正予算において、一般会計で636億円を計上しました。このうち、農林水産分野では39億円を計上しました。

■府内産農産物継続生産支援事業 ……【継続 4,000万円】

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている農産物の生産継続と産地の維持を図るために、農業者が組織する団体が行う品目転換や農産物の再生産に向けた取組を支援する。

■農林水産業基盤整備事業 ……【継続 38億8,800万円】

農林水産業のイノベーション実現のため、生産基盤を整備するとともに、安心・安全な地域社会の実現のため、農山漁村地域と森林の防災・減災対策を実施する。

特集 2

第4次京都府食育推進計画を策定しました

京都府では、食育基本法に基づき、新たに第4次京都府食育推進計画を策定しました。策定にあたっては、幅広い分野の委員の方々や、府民の皆様からの御意見をいただきました。本計画では、「つなげる、京都。つづける、食。」を基本理念に掲げ、より多様な主体に対し、効果的な取組を行い、食育を推進します。

基本的な方針

家庭、学校、地域など多様な関係者との連携のもと、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進し、より効果的に実施するため、京都ならではの和食文化を通じた食育への関心の向上や新しい生活様式・新たな日常に対応した取組を進めていきます。

施策の展開

多様な主体による食育の推進

様々なコミュニティのつながりの中で、各ライフステージ（世代）に応じた食育の取組を推進

〈家庭における食育の推進〉

- 生涯を通じた健康寿命延伸につながる食育の取組
- 若い世代を対象とした関係者連携による朝食摂取や主食・主菜・副菜の揃った食事の啓発

〈学校、保育所、幼稚園等における食育の推進〉

- 管理栄養士・栄養士、栄養教諭等を中核として関係者が連携した体系的・継続的な食に関する指導の充実
- 生きた教材としての給食を活用した食育の推進
- 就学前の子どもに対する食育の推進

〈地域における食育の推進〉

- 全世代における健全な食生活の実現に向けて、市町村と地域が連携した食環境整備の推進
- 家庭やライフスタイルの多様化に対応した、中食や外食、職場等、食へのアクセスの充実

食育の効果的な推進のための取組

受け継がれてきた京都の食文化を継承し、次世代へつなげることにより、食育への関心が高まる取組を推進

〈食育への関心の向上〉

- 地産地消や食品ロス削減の推進など食材の適切な活用
- 農林漁業者、料理人等食に関する多様な主体と府民の交流など、和食や郷土料理などの食文化を身近に感じる取組の推進

〈新しい生活様式・新たな日常への対応〉

- WITHコロナ社会を踏まえた、暮らし方の変化に応じた新たな食育の取組の推進
- ICTを活用した啓発イベントや情報発信等、多様な学びの場の提供

特集 2

京都府飼養衛生管理指導等計画を策定しました ～府内畜産農家等における防疫対策を強化します～

家畜伝染病の発生を予防するため、飼養衛生管理基準の指導方針を定めた京都府飼養衛生管理指導等計画を策定しました。家畜の異常の早期通報や農場及び畜舎内の清掃、消毒等の飼養衛生管理を徹底するとともに、家畜保健衛生所等による重点的な指導事項や勧告・命令を実施すべき事項を明確化することで更なる防疫対策の強化を図ります。



計画のポイント

- ①畜主による家畜の異常の**早期通報**、**衛生管理の点検の実施**を徹底します。
- ②疾病の早期発見のために、府が**定期的に農場の家畜を検査**します。
- ③**野生動物からの感染防止策**や、農場への**入退出時の消毒の実施**を徹底します。
- ④農場毎の「**飼養衛生管理マニュアル**」の作成を指導し、**技術的助言**を行います。
- ⑤農場が選任した**飼養衛生管理者**に対し、**家畜衛生の研修の場**を提供します。
- ⑥国内での伝染病発生時には、農場の緊急点検を行い、不備があれば速やかに改善を勧告します。

畜産課 家畜衛生係 TEL：075-414-4985

特集 2

京都府内水面漁業振興計画を策定しました

河川などの内水面漁業の健全な発展に関する施策を総合的に実施するため、京都府内水面漁業振興計画を策定しました。水産資源の減少や漁業者の高齢化といった課題に対応するため、次の3つのポイントに沿って歴史ある京都の内水面漁業の振興を図ります。

計画のポイント

- ①内水面水産資源の回復
 - ・アユやマス類の増殖、養殖の振興を図ります。
 - ・カワウやオオクチバスなどによる食害被害の防止を継続します。
- ②内水面漁場環境の再生
 - ・良好な水の安定的な確保や森林の保全に取り組みます。
 - ・魚が遡上できる魚道や魚の住処づくりを推進します。
- ③漁業協同組合の持続的活動と内水面漁業の健全な発展
 - ・観光業との連携等、遊漁振興に関する新たな取組について支援します。
 - ・イベントの開催などによる、新たな担い手の確保につながる取組について支援を行います。



鴨川での魚道設置作業（三条大橋付近）
（令和2年6月）

水産課 漁政企画係 TEL：075-414-4992

特集
3

「豊かな森を育てる府民税」の課税期間を延長します<第2期のスタート>

森林は、土砂災害の防止や水源のかん養など、私たちの生活に欠かすことのできない役割を果たしています。この貴重な森林を将来にわたって守り育てていくため、平成28年度から「豊かな森を育てる府民税」を導入し、森林の整備・保全等の取組を進めてまいりました。

この度、豊かな森を育てる府民税の課税期間を5箇年延長し、第2期（令和3年度～7年度）の取組をスタートすることになりました。引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いします。

府民税を活用した取組

第1期（H28～R2）では、5箇年で約34億円の税収を財源に以下の取組を推進しました。

第2期では、頻発する自然災害や健全な森林の維持・増進をはじめとする喫緊の課題への対応策を重点的に推進していきます。

【第1期（H28～R2）5年間の取組について】

① 森林の整備・保全

約13億円

- ・ 流木の原因となる危険木の除去や流出土砂の撤去
- ・ 人家や公共施設等に隣接した森林における危険木の伐採
- ・ 府民公募による里山林整備

など



木製流路工による流出土砂対策

② 森林資源の循環利用

約5億円

- ・ 府内産木材を活用した木造の民間施設整備の支援、木製品の導入支援や公共施設の木質化
- ・ CLT建築物に関する相談窓口の運営支援

など



幼稚園における木質化

③ 森林の多様な重要性についての府民理解の促進

約1億円

- ・ 京都府の林業や森と木の文化を発信するためのイベント
- ・ 次代の森林づくりを担う青少年の育成などの平成28年開催の「第40回全国育樹祭」の大会宣言に沿ったテーマのイベント

など



子どもを対象にした木育活動

④ 市町村交付金

約15億円

- ・ 市町村が地域の課題に対して、創意工夫して行う取組（主な事業）

森林整備、放置竹林の整備、林道の改良
公共施設における府内産木材の利用



木製展望台の設置

課税内容

- 引き続き、これまでと同様に個人の府民税均等割に600円（年）が加算されます。

課税対象は、京都府内に住所を有する方及び府内に事務所、事業所、家屋敷を有する方。ただし次の方は課税されません。

- ・ 生活保護法に基づく生活扶助を受けている方。
- ・ 前年の合計所得が市町村の条例に定める金額以下の方。
- ・ 障害者、未成年者、寡婦、ひとり親で前年の合計所得が135万円以下の方。

- 課税期間 令和3年度～7年度

- 税収見込額 6.8億円（年）

森の保全推進課 企画・計画係 TEL：075-414-5016

特集 4

ICTを活用した未来のお茶づくりに取り組んでいます

京都府では、ICTやロボットなどを活用したスマート農林水産業の普及に向けて、南山城村において、中山間傾斜地における高品質てん茶（抹茶の原料）生産の省力化の実証に取り組んでいます。

生育等予測マッピングシステム、定点カメラによる生育状況の把握、乗用型散布量自動調整防除機等を利用した管理作業の時間削減効果の検証を進めています。

令和3年度までの2箇年計画で、宇治茶栽培に適したスマート技術体系の確立を目指します。

※本実証は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の支援により実施しています。



定点カメラ（遠隔で生育状況を把握可能）



防除機による模擬防除（水散布）の様子（散布量を自動調整しながら防除可能）

流通・ブランド戦略課 研究推進係 TEL: 075-414-4968
農林水産技術センター 農林センター 茶業研究所 TEL: 0774-22-5577

特集 5

畜産の担い手を育成しています ～1期生1年目終了レポート～

京都府では、多くの畜産の担い手を育成するために、畜産の専門的な知識や技術の習得と畜産農家でのインターンシップを組み合わせた2年間の研修コースから成る「京都府畜産人材育成研修」を令和2年4月から畜産センター（綾部市）において開始しました。

現在、1期生が「地元京都の飲食店に納得して使ってもらえる牛肉の生産」と「子ども達が継ぎたくなる楽しい畜産経営」を始めることを目指して研修に励んでいます。

これまで、牛の栄養学等の基礎的な知識や牛の飼養管理等を学んできましたが、4からはよいよ畜産農家でのインターンシップが始まります。

今後も引き続き「人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域」を実現するため、畜産の担い手育成に取り組めます。



碓高原牧場での研修の様子（令和2年7月）

畜産課 畜産振興係 TEL: 075-414-4983
農林水産技術センター 畜産センター TEL: 0773-47-0301

トピックス

上桂川統合堰（亀岡市・南丹市）の改修を行いました

スマート&コラボ

一級河川桂川の亀岡市と南丹市の境に位置し、550haもの農地に農業用水を送る「上桂川統合堰」は昭和38年に建設され、農業用水の安定供給を担うとともに、地域に暮らす住民にとって安心・安全な施設として機能してきましたが、老朽化により稼働に不具合が生じ、洪水時の河川災害の恐れがありました。

そこで、老朽化したゲートを耐久性の優れたステンレス鋼製に更新し、操作設備等を含む堰全体の改修を行い、災害の未然防止を図るとともに、遠隔監視装置を導入し、維持管理の軽減を図りました。



改修前（洪水時ゲートが一つ上がらない）



改修後

農村振興課 防災減災係 TEL：075-414-5053

次世代の担い手確保の取組を行っています

人づくりの裾野拡大

農業系府立高校4校（農芸、久美浜、峰山高校 弥栄分校、須知）及び京都府立大学の学生に対して、農業への就業や就農意欲を促進することを目的に、先進的な農業者や法人と連携し、「先進農家から学ぶ 京都の農業」と題した講演会や意見交換会、農業体験、視察を計11回開催しました。

学生からは「農業のイメージが変わった」、「普段の授業では聞けないような話をたくさん聞けて大変ためになった」等、前向きな感想が聞かれました。

引き続き、新たな担い手の確保に向けて、当事業は来年度も継続予定です。



久美浜高校による、まつみやファームでの京ほうれん草の出荷作業（京丹後市久美浜町 令和2年12月）

経営支援・担い手育成課 新規就業・人材育成係 TEL：075-414-4912

府内産農林水産物を使用した新商品開発等への支援

スマート&コラボ

今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた府内の食品製造・加工業者を対象に、府内産農林水産物を使用した「WITHコロナ」社会に対応できる新商品やサービスの開発を支援する「京もの食品販売促進対策事業」を実施したところ、丹波大納言小豆使用の「おうち時間を楽しむどらやきキット」や「原料米や酵母も府内産に拘った日本酒」などの新商品が開発・販売されました。

京都府では、大きな社会状況の変化があった際にも、府内産農林水産物が継続して利用される食品流通・販売システムの構築を目指します。



開発した商品例
(左：#おうちでどらやき、右：神聖 京都府産祝純米吟醸酒)

流通ブランド戦略課 ブランド推進係 TEL：075-414-4941

上桂川^{りくふう}“陸封アユ”セミナーが開催されました

農村漁村の絆を守る

川の漁業の主要な魚種であるアユは、冬の間は海で成長し、春には川に遡上してきます。一方、遡上のできない川では、稚魚放流が不可欠となっており、その費用が漁協の大きな負担となっています。

そこで、日吉ダムのダム湖を海代わりにして成長する“陸封アユ”^{りくふう}を水産資源として活用するためのセミナーが、令和2年12月18日、上桂川漁協等の主催で開催され、陸封アユの状況や今後できることなど活発な意見交換が行われました。

京都府では、今後とも、天然の水産資源の活用を支援していきます。



漁業関係者や地元住民など60人以上が参加され、関心の高さがうかがえました。

水産課 漁政企画係 TEL：075-414-4992

第4回Woodyコンテストを開催しました

「林業の再生」と「防災・減災」

京都府産のスギやヒノキの特性を生かした木造住宅や木製家具のアイデアを競う第4回Woodyコンテストを開催しました。

昨年度の約2倍となる123点の応募があり、審査員による厳正な選考の結果、22点の受賞作品を選定しました。

木製家具部門の最優秀賞を受賞した「ごばんチェア」については、京都経済センター内のオープンイノベーションカフェ「KOIN (Kyoto Open Innovation Network)」にて4月頃から展示予定です。

受賞作品は京都府HPで公開しています。

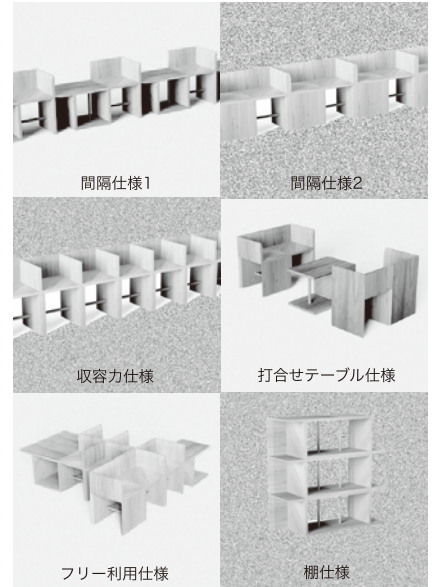
第4回Woodyコンテスト

検索



ごばんチェア

樹種：京都府内産 ヒノキ
仕上げ：ガラス塗料



木製家具部門 最優秀賞「ごばんチェア」
代表 平山 真喜子 (平山日用品店)

森の保全推進課 モデルフォレスト推進係 TEL：075-414-5005

伊東木材株式会社が“農林水産大臣賞”を受賞

「林業の再生」と「防災・減災」

福知山市の伊東木材株式会社が、公益社団法人大日本山林会が主催する令和2年度全国林業経営推奨行事において農林水産大臣賞を受賞されました。

同社は府立林業大学校が実施する研修においても学生の指導に積極的に協力いただいております。今後の府内林業の発展や担い手の育成を支える経営体として益々の活躍が期待されます。

全国林業経営推奨行事とは

林業の改良・進歩を目的に明治15年に設立された公益社団法人大日本山林会が、毎年度、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林の管理経営体を表彰する行事です。



受賞の様子

受賞理由

- ◆自己所有林や経営受託林約630haにおける長伐期施業を基本とした、高密度作業路網による低コストな利用間伐の実施
 - ◆研修会への参加など個人の特性に応じた人材育成
 - ◆特殊伐採の取組やSNSを使った広報
- など、仕事の確保だけでなく、林業従事者の地位向上を目指す経営に積極的に取り組んでおられる点が高く評価されました。

林業振興課 林業経営強化係 TEL：075-414-5019

シリーズ 農林水産技術センターへようこそ

京都府の研究機関の研究内容や成果をご紹介します

第13回 農林センター

令和2年度に取り組んでいる研究を皆様にご紹介します。

研究1：小豆の外来ホオズキ類防除技術の確立

京都産大納言小豆は京のブランド産品に認定され、京菓子にはなくてはならない原材料です。しかし、近年、防除の難しい外来雑草であるホオズキ類が各地で発生し、小豆の減収や品質低下が問題となっています。

当センターでは所内と現地の試験結果に基づき、外来ホオズキ類に有効な除草剤とその後の機械除草を組み合わせた防除体系を確立しました。

今後速やかに生産現場に普及させ、京都産大納言小豆の生産量の安定と品質向上を目指します。



問題となっている外来ホオズキ類

左：ヒロハフウリンホオズキ 右：ホソバフウリンホオズキ

機械防除
(除草カルチ)→

小豆と小豆の間に生える雑草を除草します。



農林水産技術センター 農林センター 作物部 TEL：0771-22-5010

研究2：高品質てん茶（抹茶原料）の機能性に関する研究

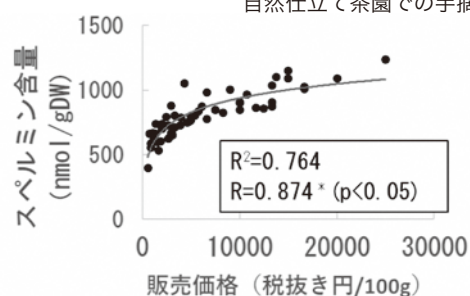
宇治茶ブランドを牽引する最も高品質な抹茶は、自然仕立ての手摘み茶園で生産されるてん茶を原料としていますが、近年需要が伸び悩んでいます。

そこで茶業研究所では、消費者の関心が高い健康機能性に着目し、高品質抹茶により多く含まれる特徴的な機能性成分の解明と評価を行っています。

これまでに、リラックス効果が期待されるテアニン、疲労回復効果が期待されるアルギニンはもちろんのこと、アンチエイジング効果が期待されるポリアミンが品質の高い上級茶ほど多く含まれることがわかりました。さらに、ポリアミンは新芽の新鮮さと関係があることが分かっています。現在、連携する医学系大学で高品質抹茶の飲用による動脈硬化や腸内環境の改善効果についてヒト試験により評価しています。



自然仕立て茶園での手摘み風景



市販抹茶の販売価格とスペルミン（ポリアミンの一種）含量の関係

農林水産技術センター 農林センター 茶業研究所 TEL：0774-22-5577

地域の取組

山城

「京やましろ産ごちそうマップ」を発行

～おいしい山城産食材を召し上がれ～

山城産食材を食べて楽しめる「京やましろ産食材提供店」や本格的な宇治茶のメニューが揃う「宇治茶カフェ」認定店、新鮮な旬の農産物直売所などを紹介したマップを作成しました。

各店舗の基本情報のほか、宇治茶や新鮮京野菜、特産果樹などを使った地産地消のおすすめメニューも掲載しています。

各店舗は、「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、適切な感染予防対策に取り組んでいます。

マップは、各店舗のほか、山城広域振興局（宇治、田辺、木津各庁舎）、市町村等で配布しています。



(令和2年12月発行)
感染拡大予防ステッカーを掲示した124店舗を掲載

山城広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL: 0774-21-3212

南丹

誰もが住み続けられる地域を目指して

摩気ビジョン「MAKE(まけ) The Future! ～豊かな環境の未来へ～」が完成

南丹市園部町「摩気高山の郷振興会」では、令和元年度から2年間「農村型小規模多機能自治推進事業」を活用し、摩気地域の将来ビジョンの策定に取り組みました。

地域を担う若者や女性、移住者など約20名の委員で構成する「摩気の夢を語る会」を組織し、5回のワークショップでの話し合いや廃校を有効活用した先進地域への視察の結果、ビジョンが完成しました。

令和3年度以降は、今回策定したビジョンの達成を目指し、「なりわいづくり」をはじめとする取組を着実に進めていく予定です。



「摩気の夢を語る会」ワークショップ

南丹広域振興局 農林商工部 地域づくり振興課 TEL: 0771-22-0153

南丹

「亀岡牛」枝肉共励会が開催、学校給食にも登場

地域の銘柄牛である「亀岡牛」の枝肉共励会が、令和2年12月13日(日)に亀岡市食肉センターで開催されました。

出品25点のうち、京都府知事賞等、10点が表彰され、すべての肉が府内の精肉店等に競り落とされました。

共励会の開催は、亀岡牛地域ブランドの確立、後継者の生産意欲および安心・安全な食肉供給に寄与するものと期待されます。

また、京都産和牛の需要喚起と食育の推進を目的として、12月に「亀岡牛」が亀岡市内の小学校給食に「焼き肉丼」として登場しました。コロナ禍で需要が落ち込んだ京都府産和牛ですが、子どもたちには、地元のブランド食材について知ってもらう機会となりました。



子どもたちに好評！亀岡牛を使った「焼き肉丼」

南丹広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL：0771-22-0371

丹後

新型コロナウイルスに負けるな！ 「丹後産野菜&フルーツ 応援フェア」を実施

丹後広域振興局では丹後の食の魅力を発信し、都市部の方々が新しい顧客となり応援いただく取り組みを進めてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、農業者の皆さんは、飲食店との取引や市場価格の低下、観光客やフルーツ狩り体験者等の減少など、大変苦しい状況にあります。

そこで、令和2年7月から京都市内の百貨店等の協力により、農業者を元気にする企画として、丹後産野菜とフルーツの特設コーナーを設置し、2月末までに約530万円の売上を記録しました。



←GOOD NATURE STATION
梨のフレッシュジュース



大丸京都店 ↑
丹後産野菜&フルーツ応援フェアコーナー

高島屋京都店	7月～9月	B1生鮮サービスカウンター前で旬の丹後産農産物を販売(ほうれん草、水菜、スイカ、メロン等)
大丸京都店	9月～3月	B1ごちバラ活いきき処で販売ほか、オンラインショッピングにも丹後の野菜・フルーツセットを掲載
GOOD NATURE STATION	9月	梨にスポットをあて、フェアでの販売、フレッシュジュースへの加工、レストランでの提供などを展開
リフレかやの里	11月	ランチビュッフェに期間限定でCAS冷凍フルーツ※が登場

※CAS冷凍：細胞壁を崩さずに冷凍できる電磁波を利用した急速冷凍技術。解凍時のドリップが通常冷凍品より少なく、香りも残っているのが特徴。

丹後広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL：0772-62-4305

シリーズ スマート技術の活用で農林水産業が変わる！

京都の稲作に役立つスマート技術の実証

京都府では、ICTやロボットなどを活用したスマート農林水産業の普及に向けて、亀岡市保津町において、中山間地での稲作スマート技術を実証・展示するプロジェクトに、令和元年度から令和2年度まで2箇年取り組みました。

プロジェクトの成果として、農薬散布用ドローン、水管理自動制御システム等による作業時間の削減など、スマート技術の効果が確認されました。

今後は、プロジェクトの成果を活かし、京都府の稲作に適したスマート技術の生産現場への普及を目指します。

※本実証は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の支援により実施しました。

※削減した作業時間は、令和元年度成果をもとに記載しており、令和2年度成果は取りまとめ中です。



農薬散布用ドローン
(作業時間約70%削減)



遠隔操作可能な水管理自動制御システム
(作業時間約40%削減)

流通・ブランド戦略課 研究推進係 TEL：075-414-4968
農林水産技術センター 農林センター 作物部 TEL：0771-22-5010

ICT技術活用によるパイプハウス等の環境データの見える化

京都府では、園芸作物の栽培にもスマート技術の導入を進めるため、安価なICT機器によって簡易に環境データ(温度、湿度等)を見える化し、増収や高品質生産に活用するための取組を進めています。

万願寺トウガラシをはじめに、令和2年度からは、伏見トウガラシ、ブドウ、イチゴ、トマトにおいて、府内各地で実証を行っており、今後京都府の園芸作物に適したスマート技術の確立を目指します。



ハウスにICT機器を設置し、環境データを計測

流通・ブランド戦略課 研究推進係 TEL：075-414-4968
農林水産技術センター 農林センター 園芸部 TEL：0771-22-6492

発行/令和3年3月

編集/〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府農林水産部農政課

TEL：075-414-4898 E-mail：nosei@pref.kyoto.lg.jp

世界人権宣言65周年キャンペーン「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」ができました。歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか

公式ホームページ <http://www.jinendo.co.jp/sekaigahitotsunokazoku/>